



日本共産党京都市議会議員

議会報告ニュース

VOL.95
2022年7月24日号

〈連絡先〉
日本共産党
山科区生活相談所
山科区西野大手先 8-8
☎ 595-8342

参議院議員選挙ご支援ありがとうございました!

結果及ばず……でしたが、でも
諦めてはいられません! 引き続き頑張ります!

～物価高騰から暮らしを守る消費税減税と賃上げを!
軍拡・核共有ではなく憲法9条にもとづく平和外交を～



↑
←街頭演説会



勤修小学校
個人演説会のカラフルトーク



タウンミーティング



お帰り宣伝



山科駅前
小池晃書記局長の応援

《京都2区の得票数》

①吉井 章	自民	29,3071 (山科	1,7211)
①福山 哲郎	立憲	27,5140 (山科	1,0065)
②楠井ゆうこ	維新	25,7852 (山科	1,3037)
たけやまさいこ	共産	13,0260 (山科	6280)
あだちゆうじ	参政	4,0500 (山科	795)

他4人

ママチャリ子育て日記

学校の経験生かして成長!

五月の話ですが、中二の娘が中学校の取り組みで、数人のグループをつくり、公共交通を使って市内の高校見学や観光名所を巡る郊外学習に行っていました。

自分たちで経路を調べ、バスや地下鉄を乗り継いでまわったこと、名所めぐりも楽しく、見学先の高校では、いい対応していただいて高校の雰囲気がよくわかった、と言って、喜んで帰ってきました。

このような経験は、進路選択に実感が湧き、また自分の住む市や町を知る経験にもなり、とても良いですね。特に、うちのように親が忙しく、一緒にゆっくりと市内を公共交通を使って周遊するなどのゆとりがない家庭では大助かりで、こんな経験が子どもを成長させてくれると思います。

それを実感したのが、先日のこと――。

娘は、挑戦することが好きで、以前から漢字検定など受けていましたが、今回、京都検定を三級から受けてみる、と申し込んだところ、受験会場は立命館大学! それも試験日は参議院選挙投票日当日! 母は連れて行けません。だけど、過去に立命館平和ミュージアムに一度行ったことがあったのと、前述の中学校での経験で自信がついたようで、なんと一人で公共交通を使って受験に行きました。

試験の手応えも、自分で行動できたことも、本人にとっては大満足だったようで、良い経験ができました!





新型コロナウイルスの感染急拡大に対する 申し入れ(7/15)

感染の急速な拡大によって、学級・学校閉鎖、保育園等のクラスや施設単位の休園・休所が急増しています。京都市として、新たなウイルスの特性に応じた感染拡大防止対策を徹底することを求めました。

特に保育園等から要望のあった、検査キットの提供力所の拡充については、各区役所単位で、と求めたところ、京都市当局は提供力所の拡大は検討していると回答しました。また、感染に不安がある方への無料検査は7月16日から再開することを京都府が発表しています。

感染が急拡大しています。保健所はじめ関係機関の対応が必要ですが、お困りの方は日本共産党市会議員団にご連絡ください。

▶ TEL 222-3728

第3回京都市山科地域公共交通会議 (6月28日)



山科の公共交通を充実させるため住民の皆さんも委員として参加される重要な会議です。私も傍聴しました。

冒頭、大学教授の委員により『地域公共交通計画と地域公共交通会議の役割』と題した講演が行われました。

本計画は「地域の『持続可能な公共交通』を実現していくもの」と言いますが、「公共交通は運賃収入が確保されなければ維持できず、赤字の負担を負うことになる。行政の負担にも限界がある」と言われました。しかし、日本では行政はほとんど負担していません。これに対して、ヨーロッパの国々のように税金を財源に公共交通の維持に国が責任果たすことが必要では?と感想をもちました。

また、委員は山科区のバス乗車を増やす住民運動を大変評価して、地域で支える取り組みを山科区モデルとして他地域に伝播していくべきと言われました。

これに対しては、住民による自助共助の取り組みをあてにするのは、住民にも限界があることをいかに考えるのか?と疑問をもちました。重要なインフラとして公共交通を支えるべき公的責任であることが議論されるべきです。

他の委員からの代表的な発言は以下の通りです。

◆小金塚委員

ボランティアバスは住民に負担の大きい運行形態。運転手の平均年齢70.5歳。数年すると運転できなくなる。燃料費の負担も想定1.5倍。坂も急でゆっくり走るので、1リットル3.2kmしか走らない。来年度から燃料の補助はないというが見直していただきたい。

◆音羽学区委員

音羽学区の小金塚。高齢者が免許返納しているのに、70代の運転手で維持するとは安全上も逆行している。市や京阪が運転手を用意すべき。

◆鏡山学区委員

乗車運動はやりつくした。あとは増便をどのように対策していただくか。山科区全体をみて考えていただきたい。

◆山階南学区委員

道が狭く、道路の拡張を要望している。若い人も乗ってほしいと訴えている。

◆西野学区委員

くるりは、乗客が多く車内の事故も心配。復活した市バスの利用者増に宣伝頑張る。

◆京阪バス委員

増便の願いに応えられず申し訳ない。今、会社がつぶれるか否かの瀬戸際だ。課題は3点。

一つは、敬老乗車証制度の改変で市からの交付金が減少する。これでは運行を維持できない。

二つ目は『危険なバス停』の改善で、工事費の負担が大きい。

三つ目に、歩行者のためのポールを立てられるが、さらに狭い道路環境でバスの運行に支障が出ている。道路環境の改善を。

後日のまちづくり委員会でとりあげ一般質問を行いました。

